

Ⅲ モデル事業の実施状況

1. モデル事業の内容

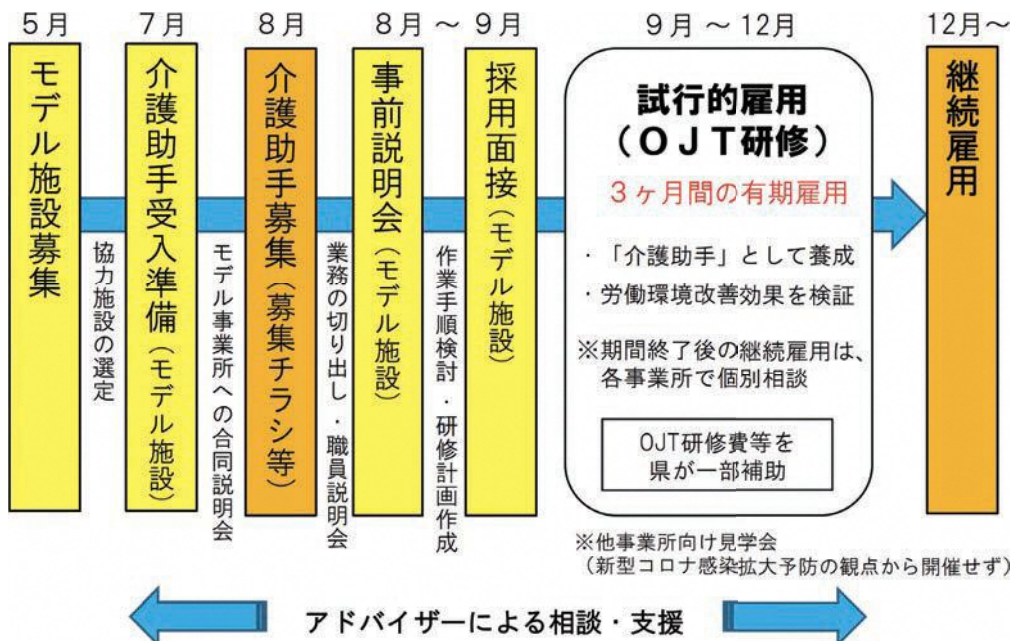
富山県では2021年度に「元気高齢者による介護助手制度導入モデル事業」を実施（公益財団法人 介護労働安定センター富山支部へ委託）し、県内5つの介護保険施設において、64歳～75歳、計11名の元気な高齢者が「介護助手」として、試行的に3か月間雇用されました。全員が期間を無事に終了し、その後も8名の方々が介護助手として、引き続き介護現場で活躍しています。

（1）介護助手の設定

業務内容	対象年齢
介護周辺業務 ・ 部屋の掃除、食事の片付け、シーツ交換、話し相手など体への負担が少ない業務 ・ 食事介助や入浴介助など専門的な知識が必要な業務には、原則従事しない	概ね60歳以上の元気な高齢者 （アクティブ・シニア）
時給（モデル期間中）	雇用期間（「介護助手」の試行的雇用期間）
900円／時間（原則） ・ モデル期間終了後（継続雇用時）は、各施設の賃金体系に基づき支給	3か月 ・ 期間中、OJT研修を実施し必要な知識・技術を習得 ・ 施設と介護助手の話し合いで、期間後も継続して雇用可能
	勤務時間（モデル期間中）
	短時間勤務 ・ 例：週16時間（1日4時間×週4日）

※具体的な業務内容や勤務時間帯などは、各施設が設定（県はOJT研修費等を一部助成）

（2）モデル事業の流れ（概ね下図のとおり実施しました）



◆「介護助手」の受入準備

介護助手が行う「業務や勤務時間の検討・整理」、「施設職員への周知」を行いました。また、円滑にスタートできるように、介護労働安定センターから各モデル施設へアドバイザーを派遣し相談・支援を行いました。



モデル施設への合同説明会

◆「介護助手」の募集

各モデル施設の近隣地区へのチラシ配布、新聞折込み、施設ホームページへの掲載、ハローワークや県シニア専門人材バンクへの求人登録、近隣自治振興会への協力依頼など幅広い方法で、参加を募集しました。

また、介護労働安定センター主催の「介護入門的研修」でも紹介し、参加者を募集しました。



介護助手の勤務風景を見学

◆事前説明会

シニア向けの事前説明会を開催し、介護助手に関する説明や施設の紹介、施設見学を行いました。

◆採用面接

事前説明会や、ハローワーク、県シニア専門人材バンクからの紹介で条件が合った場合、各モデル施設で採用面接を実施しました。



OJT責任者との打合せ

◆3カ月のOJT研修

必要な知識と技術を習得に向けて、介護助手への研修を3か月間実施しました。

【介護助手の声】

Aさん「自宅も近いので早朝からの勤務も可能であり、やりがいを感じている」

Bさん「通勤に時間がかかるので降雪時に不安はあるが、勤務開始時間にゆとりがあるので、生活にメリハリが出て、家事との両立もできている」

Cさん「仕事にも慣れて自分でもできる仕事を任せられ、やりがいと生きがいを感じる。施設の職員が親切に対応してくれるので、仕事が楽しい。今後も続けていきたい」

【モデル施設の声】

職員からは「介護助手が居て大変助かっており、介護職員が専門的な業務に専念できるようになった。今後も介護助手の導入を継続してほしい」。また、施設管理者からは、「今後、介護助手をさらに増やしたい」との声が多数聞かれました。

◆アドバイザーの派遣

モデル事業が円滑に進むよう、モデル事業所へアドバイザーを派遣し相談・助言を行いました。

具体的には、「職員の役割分担に偏りが無いよう仕事の配分を考えた方が良い」「最初からたくさんの仕事を依頼すると疲弊して、継続することが難しくなるので、ルーチンワークの中からできるものを3～4つお願いし、慣れてきたら少しずつ仕事を増やすのが良い」など分かりやすくアドバイスしました。



モデル施設への助言



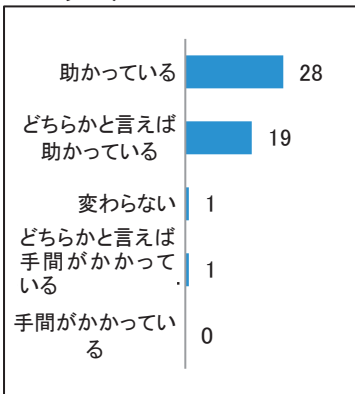
介護助手からの聞き取り・相談

(3) モデル事業アンケート

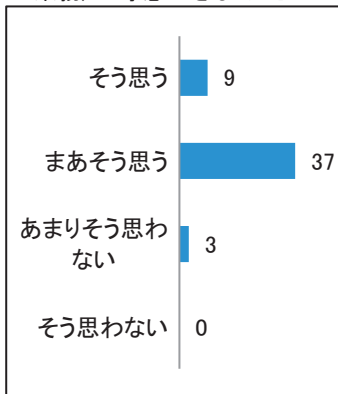
〇JT期間終了時にアンケートを実施しました。その結果は次のとおりです。

施設職員へのアンケート

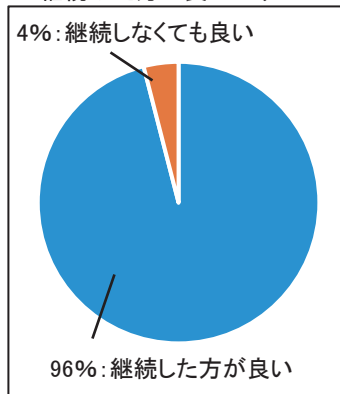
①介護助手を導入されてどうですか？



②介護職員が専門的業務(本来業務)に専念できましたか？

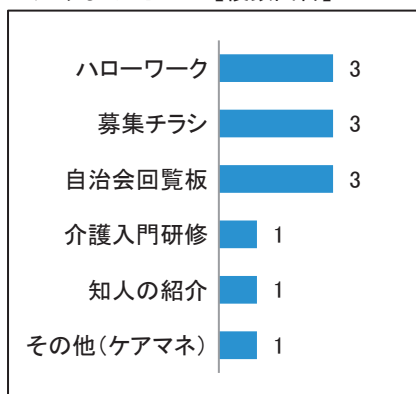


③今後も介護助手の導入を継続した方が良いですか？

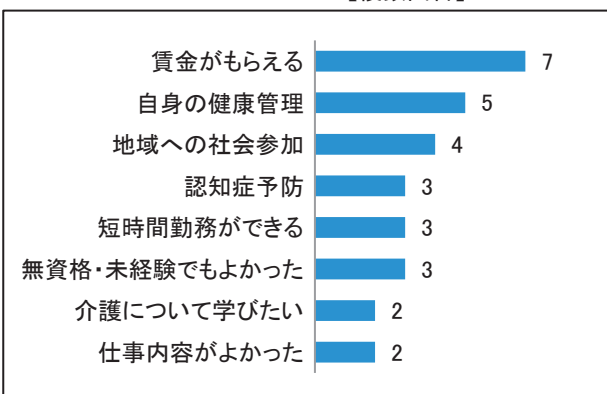


介護助手へのアンケート

①介護助手の募集をどこで知りましたか？【複数回答】



②介護助手に応募した理由は何ですか？【複数回答】



2.モデル施設の取り組み事例

2021年度に実施した「元気高齢者による介護助手制度導入モデル事業」のうち、次の3つの事例を紹介します。

事例1：医療法人財団五省会 介護老人保健施設 みどり苑

事例2：社会福祉法人福鳳会 特別養護老人ホーム 鳳鳴苑

事例3：アイ福祉サポート株式会社 グループホーム しばんばの里

【令和3年度 モデル事業 参加施設一覧】

No.	施設名	住所	電話番号
1	みどり苑	富山市秋ヶ島146番1	076-428-5565
2	鳳鳴苑	高岡市蔵野町3番地	0766-31-4567
3	グループホームしばんばの里	黒部市生地芦区34番地	0765-33-4460
4	ささづ苑 ささづ苑かすが	富山市下夕林141 富山市下夕林237	076-467-1000 076-468-1000
5	はまなす苑氷見	氷見市島尾791	0766-91-7700

医療法人財団五省会 介護老人保健施設 みどり苑



【事業所概要／事業所紹介】

所在地：富山市秋ヶ島 146 番地 1

サービス：介護老人保健施設、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、訪問看護、居宅介護支援事業所

電話番号：076-428-5565

URL：https://www.sainouhp.or.jp/

施設紹介：介護老人保健施設みどり苑は、明るく快適な空間のなか、たのしく安らぎに満ちたすこやかな人生をサポートします。

1. 取組みに至る背景

令和3年度の介護報酬改定では、科学的介護情報システム（LIFE）を活用した介護の実践が開始され、介護職員がより専門性の高い業務に専念する体制づくりが求められるようになりました。

将来的な人材不足が懸念される中で、新田県知事が「富山八策」で掲げている「介護助手制度モデル事業」を知りました。

当苑では、以下の3つの利点が見込まれることから、当該事業に応募しました。

- ①介護福祉士が介護業務に専念できる
- ②働くことで高齢者が元気になる
- ③地域の方とつながるきっかけになる

応募の結果、令和3年6月に当苑を含む5事業所がモデル事業所として選ばれました。

2. 介護助手の受入れ準備

令和3年7月に富山県高齢福祉課による説明会に参加し、介護労働安定センターのご支援を得て介護助手の受入れ準備を始めました。

7月下旬にコンサルタントに来苑いただき、OJT責任者1名、OJT担当者2名、事務担当者1名で打ち合わせを行いました。

コンサルタントからは、介護助手に依頼する業務の内容や、募集説明会で参加者に伝えておくべきこと、受け入れる施

設側の職員の心構えや受入れ体制について細かく指導していただきました。

実際の募集に関しては、ハローワークやシニア専門人材バンクに募集を出したほか、地域向けの「『元気高齢者による介護助手制度導入モデル事業』事前説明会」を実施するため、手作りの説明会チラシを230部印刷し回覧板での案内を行いました。

*事前相談会のチラシ



3. 募集説明会

令和3年8月7日に地域向けの「『元気高齢者による介護助手制度導入モデル事業』事前説明会」を実施し、7名の方が参加されました。説明会では①モデル事業の概要②介護助手が行う業務③認知症

の方に対する話し方（基本編）についての説明を行いました。また、介護福祉士によるシーツ交換業務を実際に見ていただき、具体的なイメージにつながるよう工夫しました。

8月下旬に面接を行い、60代女性1名（藤瀬さん）と70代女性1名（沖さん）の採用が決まりました。

* 事前説明会の様子



* 介護福祉士によるシーツ交換



4. 介護助手の業務

令和3年10月に介護助手2名が業務を開始しました。9:00～12:00までの3時間、週4日の勤務です。シーツ交換、環境整備、トロミ茶作り、タオルたたみなどの身体的介助を伴わない間接業務を担当してもらいました。

介護助手用のタイムテーブルとマニュアルはOJT担当者が作成し、マンツーマンで業務の指導を行いました。担当者が休みの日にはOJT担当者の次席者が行うようにしましたが、うまく運用できない部分もあり今後の課題となっています。

介護助手の採用は初めての試みだった

ため定期的に業務振り返りの面談を行い、コンサルタントにアドバイスを求め、職員間で情報共有を行いました。

継続雇用のための面談は12月初旬に実施。1名（沖さん）は冬場の通勤に不安があることから契約終了となりましたが、1名（藤瀬さん）は継続勤務となりました。令和4年3月には藤瀬さん本人から勤務時間延長の申し出があり、勤務時間を1日3時間から5時間に変更しました。藤瀬さんは当苑での仕事にやりがいを感じ、毎日いきいきとした表情で業務に取り組んでいらっしゃいます。

* 手すりの消毒



* 介護助手とわかるようエプロンを着用



5. 取組みの工夫や特徴

組織内での周知を図るため、法人内の研究発表会で「科学的介護の実践に向けて～元気高齢者による介護助手制度導入モデル事業への取組み～」という演題でOJT担当者が発表を行いました。

また法人の広報誌『ようそろ』に介護助手の紹介記事を掲載し、組織外への情報発信を行いました。



介護老人保健施設 みどり苑

新たな取り組みをご紹介します




介護助手として
働いています！

1

新田富山県知事が「富山八景」で登場！
「元気高齢者による介護助手制度
導入モデル事業」に参加！

高齢化にともなう必要な介護従事者数の増加、少子化による労働人口の減少を背景として、介護業界では人材不足の問題が年々深刻になっています。そこで、介護職員がより専門性の高い業務に専念する体制づくりのために、地域の元気な高齢者に消毒やシーツ交換等の周辺業務に従事いただく「介護助手」制度を富山県がモデル事業として導入。みどり苑を含む5事業所がモデル事業所として選ばれました。県内の介護老人保健施設で初の介護助手として、2名の方が勤務をサポートしてくださっています。

制度の導入が
生む3つの
メリット



介護福祉士が
専門の業務に
集中できる！



働くことで
高齢者が元気に！



みどり苑が
地域と繋がる
きっかけに！



「元気な高齢者が
活躍の場を
提供します！」

沖 敬子さん

以前は介護施設で調理員として勤めておりました。利用者さんと一緒に会話を楽しみながら、タオルを畳んだりお茶の準備をしています。少しでも皆さんのお役に立てたら嬉しいです。



「地域と
繋がる
きっかけに！」

高橋 昌美さん

未経験のお仕事なので不安も多いですが、利用者さんから「頑張って」や「手伝おうか」などのお声をかけていただけた時はとても嬉しいです。皆さんの名前を早く覚えるのが目標です。

6. 今後について

介護助手制度の導入は、介護職員が介護業務に専念し科学的介護の実践につながるきっかけをもたらしました。人生経験豊富な介護助手からコミュニケーション力を学び、スタッフにとっての刺激にもなっています。

今後も継続して介護助手を採用し、地域に根ざす介護サービスを提供していきたいと考えています。

事例 2

社会福祉法人福鳳会 特別養護老人ホーム 鳳鳴苑



【事業所概要／事業所紹介】

所在地：高岡市葦野町3番地

サービス：特別養護老人ホーム鳳鳴苑 定員70名

ユニット型特別養護老人ホーム鳳鳴苑 定員60名

介護職員78名 介護助手(障害者雇用含む)11名

電話番号：0766-31-4567

URL：http://www.fukuhokai.jp/

施設紹介：「敬老愛護」をモットーに、人の心の痛みがわかるあたたかい雰囲気のもと安心安全な介護サービスが提供できるように日々努めています。
従来型施設もユニット方式を取り入れています。

1. 介護職員採用状況の変化・業務の負担増

これまで毎年県内の養成校等から採用できていた状況が養成校の学生数も減少したことで採用が難しい状況となり、職員を育成するにも長く時間がかかる状況になってきました。また、女性の多い職場ということもあり、産休・育休が常に発生することから、必要な人材を確保しておくことも難しく、介護職員の業務負担の増加につながっています。

そこで法人として採用の方向転換をすることになり、現場をサポートする事務員と介護助手職員を採用してきました。採用したことで、介護職員の負担軽減になり、介護職としての専門性のある業務に集中することができてくるなどの効果もでてきました。

また、令和2年の施設増築や既存施設の改修に伴いユニット単位での業務が増えたことから、介護助手の業務がさらに重要となってきたため、令和3年度の介護助手モデル事業に参加し、近隣の高齢者の採用に向けて取り組みを進めていくことにしました。

2. 業務範囲の定義を明確にし、作業を切り出し

それぞれの定義を明確にしました。

「介護職」

直接的に生活介助に携わる業務全般

定義に従い、現場職員に対し、介護助手へ移行できる業務について切り出しを依頼しました。

業務内容の中で、入浴時の準備・片付けにかかる時間が多く、浴室までの移動距離、業務時間中に現場を離れた作業となるなど負担がありました。洗濯作業では、洗濯後に乾燥機に入れるなどその都度の作業に手間がかかり負担が多いと感じることが課題としてありました。そこで、一つひとつの細かい作業を切り出し、その部分を担ってもらうことを中心に考えました。

切り出した業務を1日単位で捉え、業務内容と時間帯の一覧表、作業ごとの手順書を作成しました。

受け入れ準備のため、業務内容・指導及び1日の振り返り等を確認する担当者について周知しました。

*介護助手受入れのための会議



3. 募集・説明会・採用面接

案内用チラシを作成し、通いやすい地域の高齢者をターゲットに考え、近隣地域（担当包括地域エリア内）に配布（250部）しました。

配布方法は、もともと地域の回覧板に広報誌を入れてもらっている関係もあり、各自治会に依頼し、回覧板で配布しました。

説明会は、令和3年8月30日（月）10時から行い、2名が説明会に参加されました。他1名が電話対応にて希望あり、計3名が希望されました。後日希望者と個別に採用面接を行い採用を決定しました。

生きがいのため、また生活にメリハリをつけるために頑張りたいと申し込まれたケースが多かったです。

* 事前説明会の様子



4. 作業の見える化

初日は、1日の業務の動きの業務一覧表と作業ごとの手順書について説明しました。また館内が広く、業務ごとに移動が必要になるため、館内図を渡して移動経路を見える化し、理解できるように工夫しました。

介護助手の勤務時間帯、能力に合わせて、業務を組み合わせ、一人ひとりに合った作業手順書を作成しました。

業務日誌は、その日の作業状況を記録するとともにお互いに1日を振り返り確認できる資料として、介護助手一人ひとりの内容に合わせて作成しました。気になることなど何かあれば、コメント記載ができるようにし、提出する場所を決め、提出の際にその場で職員とその日の振り

返りをするなどの体制を整えました。

介護助手一人ひとりの理解度を確認しながら職員が付いて指導を行いました。今回対象の職員がひと通り覚えるために要した期間は1週間程度でした。

* 洗濯作業の様子



5. 困ったときに相談できる場所、職員を明確に

困りごと、わからないこと等、誰に確認するのか、相談窓口の場所を明確にしました。平日、祝日、土日によって対応できる職員も異なってくるため、特に注意が必要でした。

平日の場合は、どこかに必ず対応できる職員がいますが、平日以外の場合は、対応できる職員が限られてくるのが現状です。

* 責任者との作業打合せ



実際に、作業手順に記載のないことや備品の破損など、どうしたらよいかわからず、次の平日まで困ったことが放置されたケースもありました。相談担当者を明確にすると、そういった不安が無くなります。小さな不安の積み重ねが続くと働く意欲の低下につながると感じています。

これまで時間・余裕がなくてできなかった所をきれいに掃除してもらい、後回しにしていた細かい作業を担ってもらうことができています。一つひとつの作業を丁寧にしてもらえるので、安心してお任せできています。

利用者と年齢に近いこともあり、利用者目線で環境を見てもらうことで、これまで気づけなかった部分を改善していくきっかけになっています。

また、最初から作業は詰め込まずに介護助手の能力・体力的な面を考慮しながら徐々に本人と話をしながら作業を見直すなど進めてきました。

6. 地域貢献につながる

近隣地域の高齢者が働くことで地域貢献にもつながると考えています。

今では介護助手がいることが当たり前の状態となり、とても助かっています。今後も長く継続して働いていただきたいです。

今後、継続して働き続けてもらうためには、高齢者であることから体調や作業内容に配慮していく必要があります。当初はできていたことでも、できなくなることも想定されます。定期的に面談や声掛けを行い、状況把握に努めて対応していきたいです。

(例) 作業手順

項目	番号	内容	添付資料
本館洗濯室の掃除	1	乾燥機のホコリ取りをする。(ホウキで掃きだして掃除機で吸い込む)	
	2	寝具類のカートが一杯になったら袋を入れ替える。(一杯になった袋は縛って大きなワゴンに載せる)	
	3	洗濯室内の寝具類のカートを廊下に出す。(廊下に出さなくても片側ずつに寄せながら作業しても良い)	
	4	洗濯室内及び汚物室内の床のホコリを取る。(ホウキ・又は掃除機使用)	
	5	洗濯室内及び汚物室内の床を水モップで拭く。	
	6	寝具類のカートを定位置に戻す。	
	7	洗剤等の補充の確認。(補充用の洗剤は別館2階に取りに行く)	
	8	流し台を磨く。	

(例) 業務の流れ

勤務時間 8時～11時	月・火・木・金・土(週5日間) ※水・日休み	
	作業場所	業務内容
8時～	別館2階あかね	業務等の確認(職員へ声をかける)
8時05分～	別館2階バンジー浴室上がり場	別館2階の洗濯ものを回収・運搬
8時15分～	本館1階洗濯室	大型洗濯機で洗濯する 2台に分けて稼働 (①入居者の衣服はネットのまま・②タオルの洗濯に分けて入れる) ※通常プログラム2に設定(50分程) 洗濯室及び汚物庫内の掃除(床・乾燥機のホコリ取り、洗剤等の補充、寝具類等のカートの整理整頓) ※空き時間に正面玄関のスリッパ拭き掃除
9時～	本館1階洗濯室	洗濯終了後、乾燥機1台(40分程)に入れ替える
	別館2階パブリック	前日の洗濯物を整理し、各居室のタンスに入れる (各居室のタンスに入れる時間がない場合、各ユニット毎に分けて置くだけでも良い)
10時～	本館1階洗濯室	乾燥した衣類を別館2階まで運搬、洗濯たたみ(時間内にできるだけのみ)
10時50分～11時	別館2階あかね	業務日誌記入 ・ 勤務終了

事例 3

アイ福祉サポート株式会社 グループホーム しばんばの里



【事業所概要／事業所紹介】

所在地：富山県黒部市生地芦区34番地

サービス：認知症対応型共同生活介護（グループホーム）
2棟・定員18人

電話番号：0765-33-4460

施設紹介：個室に閉じこもらないような環境作りを目指し、家族、親せき、知人が気楽に訪問し面談できるような環境づくりを目指しております。

- *併設するデイサービスとの交流を頻繁に行う。
- *庭の散歩や畑での花作りなど屋外での活動を多くする。
- *日常活動に趣味、コミュニケーション、体操の時間などを設ける。
- *「しばんば農園」耕作者との交流を設ける。
- *買い物、花見などの外出の機会を設ける。

1. 取組みに至る背景

弊社でも求人を出しても応募がない事が続き、職員不足・職員の高齢化が進む中、少しでも介護職員の負担を軽減できないかと考えていました。以前より、食事作りや洗濯、介護補助の職員として採用していましたが、資格や加算の問題もあり積極的に採用することが出来ませんでした。

今回のモデルケースでは、身体介護を行わない事となっており、資格が必要なく、応募される方も応募しやすく、職員も介護助手の仕事内容が明確になり、お互いの仕事内容が解り易いと考え導入しました。

2. 介護助手の導入準備

事前に、介護職員の負担軽減の為、朝・昼食の配膳準備と片づけ、入浴時の洗濯整容の部分を介護職員から切り離し、身体介護なしで業務を行うってもらう事を説明しました。

介護補助員の受け入れは従来通り、仕事の内容以外は非常勤職員と同等にしました。

実際に行って頂く業務は、タイムテーブルに添って行う事を記載した、手順書を作成しました。

3. 募集、説明会・採用面接

7月・8月の二回に分けて、近隣市町村での新聞折り込みチラシによる求人と、地元自治振興会にお願いして、地域の回覧板に求人チラシを入れさせていただきました。

これにより、早い段階から三人の方から応募をいただき、面接を経て二人をモデル事業内での採用、もう一人を他事業所での独自採用として就業していただきました。

4. 介護助手への指導支援について

指導については担当者を決め行いました。

業務内容については、行う事、行わなくても良い事を明確に伝えました。

また、入職時に守秘義務や事業所の理念を伝え、認知症の方の特性についても伝えました。

業務の習熟度の自己チェックを1ヶ月ごとに行い同時に評価も行いました。

職員会議や研修会などは他職員と同様に参加して頂き疎外感が無いよう配慮しました。

*清掃作業の様子



*作業打合せの様子



*食器洗浄・片付け



*一緒に体操



5. 取組みの工夫

前述しましたが、身体介護を行わない事以外は他職員と同様にすることで、一体感や充実感を味わって頂き、仕事にやることに張り合いが出るように配慮しました。

6. 今後について

今後も介護職員不足が続く中、専門の資格が無くても出来る仕事を切り離して、元気シニアの方をお願いできれば良いと考えております。

出来るならば、地域の方に仕事に来て頂き、地域の方が支えて下さる施設となり、双方向の援助が出来る地域に開かれた施設になれば良いと考えております。

■参考文献

介護助手導入マニュアル

（発行：2019年3月 三重県 医療保健部長寿介護課）

介護助手の手引

（発行：2022年2月 福岡県 医療介護部高齢者地域包括ケア推進課
介護人材確保対策室）

令和4年版高齢社会白書

（発行：2022年6月 内閣府）

富山県高齢者保健福祉計画及び第8期富山県介護保険事業支援計画

（発行：2021年3月 富山県 厚生部高齢福祉課）

発行 **富山県 厚生部高齢福祉課**

住所：〒930-8501 富山市新総曲輪1番7号

電話：076-444-3204

制作 **公益財団法人介護労働安定センター富山支部**

電話：076-444-0481